

第1学年国語科学習指導案

単元名 小説に書かれていない場面を想像して、考えを交流しよう

教材名 「少年の日の思い出」(東京書籍・光村図書 第1学年)

1 単元について

佐賀県の中学校第1学年の実態として、平成24年度全国学力・学習状況調査の結果から、「登場人物の相互関係から人物像やその役割を捉え、内面にある深い心情も合わせて捉える」ことを問う設問において正答率が39.6パーセントで、期待正答率を下回っており、課題が見られる。

生徒は、これまで小学校や中学校第1学年の文学的な文章の学習において、場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を捉える学習をしている。しかし、文学的な文章の表現の特徴について捉え、その工夫や効果について自分の考えをもつという学習活動の経験は少ない。登場人物の内面にある深い心情を捉えるためには、文章表現の工夫や効果に気付き、想像力を働かせて心情を推し量ることが必要である。

以上のような課題と生徒の学習の実態から、本単元では、「小説に書かれていない場面を想像して、考えを交流する」という言語活動を通して、「思考力や想像力を働かせながら読む力」と「表現の工夫とその効果について自分の考えをもつ力」を身に付けさせたいと考えた。学習指導要領の指導事項との関連では、「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること」(「読むこと」ウ)、「文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分の見方や考え方を広くすること」(「読むこと」オ)を考えたい。心情描写や情景描写に注目して内容を正確に読み取り、本文の記述を基に自分の考えをもたせ、交流することで、ものの見方を広げたり、考え方を広くしたりしていくことを指導したい。

「少年の日の思い出」の登場人物は生徒と同世代である。そのため、生徒自身が話の内容を自分のことのように受け止めることが予想される。また、話の展開、情景や心情の描写に工夫がされていて、登場人物の心情に迫りやすい。さらに小説の内容は、人間の生き方などについて考えるきっかけになるものであり、書かれている内容を読み取り、それに対する自分の考えを広げていくことに適している。中学校第1学年のまとめの段階に学ぶ文学的な文章としては適切な教材である。

2 単元の目標

- (1) 場面の展開及び心情や情景を表す語句に注意して読み、内容の理解を深めることができる。
- (2) 読み取ったことを基に自分の考えをもち、交流して自分のものの見方や考え方を広げることができる。

3 単元の言語活動

本単元では「読むこと」の力を身に付けさせるために、学習指導要領第2学年「C読むこと」の(2)に位置付けられている言語活動例の「ア 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること」を参考にして、小説を読み、小説に書かれていない場面を想像して考えを交流するという言語活動を位置付けた。この言語活動を通して、描写に注意して読んで内容の理解を深めたり、自分のものの見方や考え方を広くしたりすることを指導したい。

4 単元の評価規準 () 内は該当する指導事項等の記号

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
①文章を読んで感想をもち、交流して考えを広げようとしている。	①場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解して自分の感想をもっている。(ウ) ②小説に表れているものの見方や考え方を捉え、交流して自分のものの見方や考え方を広げている。(オ)	①心情や行動などを表す多様な語句の働きについての理解を深め、描写に注意して読んでいる。(イ(ウ))

5 指導と評価の計画(全6時間)

次	時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
一	1	<p>1 モデル学習に取り組み、感想をもつこと及び見方や考え方を広げることについて自分の能力を自覚する。</p> <p>2 学習課題「小説に書かれていない場面を想像して考えを交流し、描写に注意して読む力を付けたり、自分のものの見方や考え方を広くしたりしよう」を設定する。</p> <p>3 単元の計画を知り、学習の見通しをもつ。</p> <p>4 書かれていることを根拠にして書かれていない場面を想像し、考えを交流するために、場面の展開や登場人物の描写、及び情景描写に気を付けて全文を通読する。</p>	<p>○既習教材を用いて、どのようにして感想をもち、どのようにして見方や考え方を広げたかを想起させる。</p> <p>○小説に書かれていない場面を想像するには、描写に注意して読み、書かれていることを根拠に想像することが大切であることを理解させる。</p> <p>○学習計画表を用いて、単元の学習活動を確認させ、学習の見通しをもたせる。</p> <p>○自分の考えをもって交流することを見通して、本文を読むように促す。</p> <p>○ワークシート②を手掛かりに、情景描写や心情描写にマーキングをさせる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[国語への関心・意欲・態度] ① 観察、ワークシート①、学習計画表</p> </div>
二	2	<p>5 小説の全体の構成をつかみ、登場人物を確認する。</p>	<p>○現在の場面から過去の回想へと続き、過去の回想のまま物語が終わることに注目させる。</p>	

	<p>6 現在の場面を読み, 情景描写の効果について考えて感想をまとめる。</p>	<p>○時間や出来事, 登場人物に着目させ, 3つの場面(現在の場面, 過去の場面Ⅰ, 過去の場面Ⅱ)に分けさせる。 〔東京書籍〕 現在…P148L 1～P150L11 過去A…P150L12～P153L13 過去B…P153L14～P160L10</p> <p>○情景描写の効果について, 人間の五感で感じる「暗さ」や「静けさ」がどのような印象を与えるのか考えさせる。</p>	<p>[読む能力] ① 本文ワークシート<Ⅰ>, ワークシート③</p>
<p>3</p>	<p>7 登場人物について書かれていることに気を付けて過去の場面Ⅰを読む。</p> <p>8 「僕」と「エーミール」の人物像や関係を捉える。</p>	<p>○登場人物の人物像を捉えるために読むという意識を明確にもたせ, 人物についての説明や描写にマーキングをさせる。</p> <p>○マーキングをした表現を根拠にして, 「僕」と「エーミール」の人物像や関係をワークシート③にまとめさせる。</p>	<p>[言語についての知識・理解・技能] ① ワークシート④</p> <p>[読む能力] ① 本文ワークシート<Ⅱ>, ワークシート④</p>
<p>4</p>	<p>9 心情や行動を表す語句に注意して過去の場面Ⅱを読み, 「僕」の心情を想像する。</p> <p>10 登場人物がどのように描かれているか考え, 「僕」の心情を想像する。</p>	<p>○「僕」の心情を表す表現にマーキングをさせ, その表現を根拠にして「僕」の心情を想像させる。</p> <p>○「僕」の目を通して描かれる「エーミール」の行動や様子が分かる表現にマーキングをさせ, その表現を根拠にして「僕」の心情を想像させる。</p>	<p>[言語についての知識・理解・技能] ① ワークシート⑤</p> <p>[読む能力] ① 本文ワークシート<Ⅲ>, ワークシート⑤</p>

三	5	<p>11 「僕」は小説に書かれた現在から先の未来で、「エーミール」と「再会する」のかそれとも「再会しない」のかについて想像し、自分の考えをもつ。</p> <p>12 小説に書かれていない場面を想像してグループで交流し、自分のものの見方や考え方を広げる。</p>	<p>○小説の表現を根拠に再会するかしないかの想像をさせ、立場を明確にさせて考えを交流させる。</p> <p>○友達の意見を聞いて、自分の考えがどのように変わったかをワークシート⑥に記入させる。</p>	<p>[国語への関心・意欲・態度] ① 観察, ワークシート⑥</p>
	6	<p>13 小説に書かれていない場面を想像して学級で交流し、自分のものの見方や考え方を広げる。</p> <p>14 単元の学習を振り返り、身に付けた力やその力を活用できそうな場面について考える。</p>	<p>○立場の同じ友達の考えや立場の違う友達の考えを聞いて自分のものの見方や考え方がどのように変わったかをワークシート⑥に書かせる。</p> <p>○単元の学習活動について指導者の評価を伝え、生徒が新しい課題や今後の学習の展望をもてるようにする。</p>	<p>[国語への関心・意欲・態度] ① 観察, ワークシート⑥</p> <p>[読む能力] ② ワークシート⑥</p>

6-1 1/6時の指導計画

(1) 目 標

文章を読んで感想をもち、交流して考えを広げようとしている。

(2) 展 開 ※ 表中のゴシック体で書かれた学習活動は、本時における評価の場面を表す。

	学習活動	教材資料	○指導上の留意点 ◆ICT活用の場面	評価規準と評価方法 ◇形成的評価による個別指導 Cの状況の生徒への手立て
導 入	1 教材「少年の日の思い出」の作者や訳者、他の有名な著書等を知り、「少年の日の思い出」が翻訳小説であることを確かめる。		◆ヘルマン・ヘッセの写真や、「車輪の下」「デミアン」などの有名な著作の写真などを電子黒板で投影し、教材に対する関心を高める。	
	2 物語や小説を読んだ経験を振り返り、小説を読むことの意義を考える。 例) ・登場人物の人生を味わうことができ面白い。 ・悩みを解決したり、勇気をもたらしたりする。 ・人間とは何かについて考えることができる。		○ヘルマン・ヘッセがノーベル文学賞を受賞していることに触れ、文学や小説の価値やそれを読むことの意義について伝え、学習への意欲を高める。	
文章を読んで感想をもち、交流して考えを広げよう				
展 開	3 感想をもつこと及び見方や考え方を広げることについての自分の能力を確認するために、モデル学習に取り組む。 〔手順〕 1) 既習教材「さんちき」を用いてA～Dまでの感想を読み、それぞれの感想の違いについて考える。 2) 1～4の解説を読み、それぞれがどの感想についてのものか考え、感想のもち方と考えの広げ方のポイントを考える。 3) グループで交流して確かめる。	ワークシート①	○既習教材を用いて、どのようにして感想をもち、どのようにして見方や考え方を広げたかを想起させる。 ◆ワークシート①を教材提示装置で投影して、内容を確認しながら、大切な言葉にマーキングをするなどして、何をするのか理解を確かにさせる。 ○時間を決めて学習に取り組ませる。(例 個人5分→グループ5分) ○理由を明らかにして答え合わせをさせる。	〔関①〕文章を読んで感想をもち、交流して考えを広げようとしている。 【観察】 【ワークシート①】 【学習計画表】 「さんちき」についての感想とその解説を読んで、感想をもつことと深めるポイントについて理解を深めようとしている状況を「おおむね満足できる」状況(B)と判断する。 感想とその解説に共通する言葉にマーキングをさせ、ポイントとつなげて読ませて理解を促す。

展 開	<p>4 学習課題「小説に書かれていない場面を想像して考えを交流し、描写に注意して読む力を付けたり、自分のものの見方や考え方を広くしたりしよう」を設定する。</p> <p>5 単元の計画を知り、学習の見通しをもつ。</p> <p>6 書かれていることを根拠にして書かれていない場面を想像し、考えを交流するために、場面の展開や登場人物の描写、及び情景描写に気を付けて全文を通読する。</p>	<p>学習計画表</p> <p>ワークシート② 本文ワークシート 〈Ⅰ〉 〈Ⅱ〉 〈Ⅲ〉</p>	<p>○モデル学習での取り組みと関連させて、学習課題につなげさせる。</p> <p>○感想交流を通して描写に注意して読む力を身に付けたり、自分のものの見方や考え方を広くしたりすることを確認する。</p> <p>○小説に書かれていない場面を想像するには、描写に注意して読み、書かれていることを根拠にして想像することが大切であることを理解させる。</p> <p>○学習計画表を用いて、単元の学習活動を確認させ、学習の見通しをもたせる。</p> <p>○自分の考えをもって交流することを見通して、本文を読むように促す。</p> <p>○ワークシート②を手掛かりに、情景描写や心情描写にマーキングをさせる。</p>	<p>◇マーキングが滞っている生徒には、ワークシート②を対照して1～2カ所マーキングをして見せ、活動を促す。</p>
	<p>7 学習計画表の「評価」の欄に学習活動をA・B・Cの3段階で自己評価して書く。また、「振り返り」の欄に「学んだこと・参考になったこと」を文章で書く。</p> <p>8 次時の「目標」を確かめ、見通しをもつ。</p>	<p>学習計画表</p>	<p>○目標に応じて学習内容がどうであったか考えて振り返るよう促す。</p> <p>○板書を参考にして学んだことを書かせる。また、グループや学級での参考になった発言などを書くように促す。</p> <p>○次時は情景描写の効果について考えることを確認する。</p>	
ま と め				

6-2 2/6時の指導計画

(1) 目 標

構成や登場人物を確かめ、情景描写の効果を考えて感想をまとめることができる。

(2) 展 開 ※ 表中のゴシック体で書かれた学習活動は、本時における評価の場面を表す。

	学習活動	教材資料	○指導上の留意点 ◆ICT活用の場面	評価規準と評価方法 ◇形成的評価による個別指導 Cの状況の生徒への手立て
導 入	1 前時の学習を振り返り、 本時の目標を確かめる。	学習計画 表	○前時に設定した学習課題 を一斉に読み上げさせ、2 ～3名の生徒に前時の「振 り返り」の欄に書いたこと を発表させる。	
	構成や登場人物を確かめ、情景描写の効果を考えて感想をまとめよう			
展 開	2 小説の全体の構成をつか み、登場人物を確認する。 〔手順〕 1) ワークシート②の表 の区切りの線が、本文 のどこに当たるか確認 し、前半が現在の場面、 後半が過去の場面にな っていることを理解す る。〔一斉〕 2) ワークシート②にあ る空欄に、適当な語句 を入れて表を完成させ る。〔個〕 3) 過去の場面を大きく 二つに分けて点線を書 き入れる。〔個〕 4) グループで、マーキ ングをしたところ、空 欄に書き込んだ語句、 点線を付けたところを 確かめ合う。〔グループ〕 5) 学級で点線を付けて 分けたところを確かめ 合う。〔一斉〕	ワークシ ート② 本文ワー クシート 〈I〉 〈II〉 〈III〉	○現在の場面から過去の 回想へと続き、過去の回 想のまま物語が終わる ことに注目させる。 〔ファンタジーや芥川龍 之介の「蜘蛛の糸」な どを例に挙げて比較し、 構成が特殊であることを 知らせる。〕 ○前半の「客」が、後半の 「僕」となって、語り手 となっていることに気付 かせる。 ○時間や出来事、登場人物 に着目させ、3つの場面 (現在の場面、過去の場 面I、過去の場面II)に 分けさせる。 〔東京書籍〕 現在…P148L 1～P150L11 過去A…P150L12～P153L13 過去B…P153L14～P160L10 ◆ワークシート②を教材提 示装置で投影して、点線で 分けたところを確実に理解 させる。	◇ワークシート②を活用して いない生徒には、前時にマ ーキングをしたところと、 ワークシート②の表を対照 させて、構成を大まかに捉 えさせ、空欄に適当な語句 を書かせる。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">展開</p>	<p>3 現在の場面を読み、情景描写の効果について考えて感想をまとめる。</p> <p>[手順]</p> <p>1) 既習事項を想起させ、情景描写の効果を出し合う。【一斉】</p> <p>2) 現在の場面の情景描写について、どのような効果があるか考える。【個】</p> <p>3) 物語の展開において最も重要だと考える情景描写について、グループで話し合い、理解を深める。【グループ】</p> <p>4) 最も重要だと考える情景描写を学級で発表し合い、「少年の日の思い出」における前半部分の情景描写の役割について考えをまとめる。【一斉】</p> <p>5) ワークシート③に「少年の日の思い出」における前半部分の情景描写の役割について自分の考えたことをまとめる。【個】</p>	<p>ワークシート③</p> <p>画用紙 サインペン</p>	<p>○情景描写の効果について、人間の五感で感じる「暗さ」や「静けさ」がどのような印象を与えるのか考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>《板書例》</p> <p>情景描写の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面の雰囲気を作る ・登場人物の心境を表す ・語り手の心境を表す ・これから起こる出来事を暗示する(予感させる) ・読み手の感覚に直接訴えて感動を生む </div> <p>◆グループの話し合いの結果について、記録係が書いたフリップを教材提示装置で投影して発表させる。</p> <p>○グループでの話し合いや学級での発表を通して広がった考えをまとめるように促す。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【読①】場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解して自分の感想をもっている。</p> <p>【本文ワークシート<I>】</p> <p>【ワークシート③】</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>現在の場面の情景描写にマーキングをして、その効果について具体的に書いている状況を「おおむね満足できる」状況（B）と判断する。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>情景描写の1つを取り上げて、グループの話し合いや学級での発表を振り返らせ、具体的にまとめられるように必要な言葉を捉えさせる。捉えた言葉を手掛かりにさせてワークシート③に情景描写の効果を書かせる。</p> </div>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめ</p>	<p>4 学習計画表の「評価」の欄に学習活動をA・B・Cの3段階で自己評価して書く。また、「振り返り」の欄に「学んだこと・参考になったこと」を文章で書く。</p> <p>5 次時の「目標」を確かめ、見通しをもつ。</p>	<p>学習計画表</p> <p>ワークシート④</p>	<p>○目標に応じて学習内容がどうであったか考えて振り返るよう促す。</p> <p>○板書を参考にして学んだことを書かせる。また、グループや学級での参考になった発言などを書くように促す。</p> <p>○次時は人物像を捉える学習に取り組むことを確認し、あらかじめワークシート④を渡しておく。</p>	

6-3 3/6時の指導計画

(1) 目 標

心情や行動を表す語句に注意して読み、人物像を捉えることができる。

(2) 展 開 ※ 表中のゴシック体で書かれた学習活動は、本時における評価の場面を表す。

	学習活動	教材資料	○指導上の留意点 ◆ICT活用の場面	評価規準と評価方法 ◇形成的評価による個別指導 Cの状況の生徒への手立て
導 入	1 前時の学習を振り返り、 本時の目標を確かめる。	学習計画 表 ワークシ ート③	○2～3名の生徒に前時の 「振り返り」の欄に書いた ことを発表させる。 ◆前時の学習活動において 「十分満足できる」状況 (A)にあった生徒の記述 を紹介し、描写に注意して 読み、内容を理解して感想 をもつことについて理解を 深めさせる。	
	心情や行動を表す語句に注意して読み、人物像を捉えよう			
展 開	2 登場人物について書かれ ていることに気を付けて過 去の場面Ⅰを読む。 〔手順〕 1) 「僕」と「エーミー ル」についての説明の 言葉や、心情や行動を 表す言葉にマーキング をする。個 2) ワークシート④の一 覧表を用いて、観点ご とにマーキングをした 言葉をまとめる。個 3) 心情や行動を表す言 葉の意味を調べて理解 を深める。個 4) 言葉の意味を調べる ことで気が付いたこと や理解が深まったこと を書く。個 5) グループで交流して 理解を深める。グループ	本文ワー クシート< Ⅱ> ワークシ ート④	○想像を膨らませるため には、手掛かりとなる表現 をしっかり読み取る必要 があることを意識させ る。 ○登場人物の人物像を捉え るために読むという意識 を明確にもたせ、人物に ついての説明や描写にマ ーキングをさせる。 ○繰り返し出てくる言葉 や、人物像を捉えるのに 重要だと思われる語句を 調べるように促す。	〔言①〕心情や行動など を表す多様な語句の働き についての理解を深め、 描写に注意して読んでい る。 【ワークシート④】 心情や行動などを表す語句 の意味を理解し、文章を読 むことに役立てている状況 を「おおむね満足できる」 状況(B)と判断する。 心情や行動などを表す語句 の1つを選んで、辞書 の意味を文脈上で具体的 な意味に当てはめて考え させ、感想を深めるのに 役立たせる。

<p style="text-align: center;">展 開</p>	<p>3 「僕」と「エーミール」の人物像や関係を捉える。</p> <p>[手順]</p> <p>1) 文書に書かれていることを根拠にして人物像を書く。 個</p> <p>2) 文章に書かれていることを根拠にして「僕」と「エーミール」の関係を書く。 個</p> <p>3) グループで交流して考えを広げたり深めたりする。 グループ</p> <p>4) グループで話し合ったことについて学級で報告し合う。 一斉</p> <p>5) グループでの話し合いや学級での報告を通して広がったり深まったりした自分の考えをまとめる。 個</p>	<p>ワークシート④</p>	<p>○マーキングをした表現を根拠にして、「僕」と「エーミール」の人物像や関係をワークシート④にまとめさせる。</p> <p>○「僕」や「エーミール」の心情や行動を表す言葉に注目させて考えさせる。</p> <p>○互いにどういう存在かを考えさせるとともに、関係を表す言葉を使って表現させるようにする。</p> <p>○参考になる発言をメモしておくように促す。</p> <p>○登場人物の人物像と互いの関係について、グループでの大体の考えと、参考になった発言を報告させる。</p>	<p>【読①】 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解して自分の感想をもっている。</p> <p>【本文ワークシート<II>】</p> <p>【ワークシート④】</p> <p>文章に書かれていることを根拠にして、登場人物の人物像と互いの関係を書いている状況を「おおむね満足できる」状況（B）と判断する。</p> <p>ワークシート④に例示した人物の性格や互いの関係を表す言葉を読ませ、使えそうな言葉をそれぞれ1～2語ほど選ばせ、その言葉を使って書くように促す。</p>
<p style="text-align: center;">ま と め</p>	<p>4 学習計画表の「評価」の欄に学習活動をA・B・Cの3段階で自己評価して書く。また、「振り返り」の欄に「学んだこと・参考になったこと」を文章で書く。</p> <p>5 次時の「目標」を確かめ、見通しをもつ。</p>	<p>学習計画表</p> <p>ワークシート⑤</p>	<p>○目標に応じて学習内容がどうであったか考えて振り返るよう促す。</p> <p>○板書を参考にして学んだことを書かせる。また、グループや学級での参考になった発言などを書くように促す。</p> <p>○ワークシート⑤を配布し、次時は、心情描写に注意して読み、心情を想像することを確認する。</p>	

6-4 4/6時の指導計画

(1) 目 標

心情や行動を表す語句に注意して読み、登場人物の心情を想像することができる。

(2) 展 開 ※ 表中のゴシック体で書かれた学習活動は、本時における評価の場面を表す。

	学習活動	教材資料	○指導上の留意点 ◆ICT活用の場面	評価規準と評価方法 ◇形成的評価による個別指導 Cの状況の生徒への手立て
導 入	1 前時の学習を振り返り、 本時の目標を確かめる。	学習計画 表 ワークシ ート④	○2～3名の生徒に前時の 「振り返り」の欄に書いた ことを発表させる。 ◆前時の学習活動において 「十分満足できる」状況 (A)にあった生徒の記述 を紹介し、描写に注意して 読み、内容を理解して感想 をもつことについて理解を 深めさせる。	
	心情や行動を表す語句に注意して読み、登場人物の心情を想像しよう			
展 開	2 心情や行動を表す語句に 注意して過去の場面Ⅱを読 み、「僕」の心情を想像す る。 〔手順〕 1) 「僕」の心情が分か る表現にマーキングを する。個 2) 最も想像が膨らむ心 情描写を1つ選び、ワ ークシート⑤に書き出 す。個 3) 心情や行動を表す言 葉の意味を調べて理解 を深める。個 4) 言葉の意味を調べる ことで気が付いたこと や心情の理解が深まっ たことを書く。個 5) 学級で交流して理解 を深める。一斉	本文ワー クシート< Ⅲ> ワークシ ート⑤	○「僕」の心情を表す表現 にマーキングをさせ、そ の表現を根拠にして 「僕」の心情を想像させ る。 ○登場人物の心情を想像す るために読むという意識 を明確にもたせ、マーキ ングをさせる。 ○どこが最も想像が膨らむ か吟味しながら、心情描 写を読ませるようにす る。 ○心情を想像するのに重要 だと思われる語句につい て辞書で調べるように促 す。 ○気が付いたことや理解が 深まったことについて発 言を促す。 ○言葉の意味の説明を入れ て発言させる。	〔言①〕心情や行動など を表す多様な語句の働き についての理解を深め、 描写に注意して読んでい る。 【ワークシート⑤】 心情や行動などを表す語句 の意味を理解し、文章を読 むことに役立てている状況 を「おおむね満足できる」 状況(B)と判断する。 最も印象に残る場面を選 ばせ、そこに用いられる 語句を辞書で調べさせ る。その辞書の意味を場 面に合わせて具体的に説 明して、理解を深めさせ る。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">展 開</p>	<p>3 登場人物がどのように描かれているか考え、「僕」の心情を想像する。</p> <p>[手順]</p> <p>1) 語り手である「僕」から見える「エーミール」の様子を書かれている部分をマーキングをさせる。個</p> <p>2) 「僕」は「エーミール」に対してどのような思いを抱いたか考える。個</p> <p>3) 「僕」と「エーミール」の関係の変化を考える。個</p> <p>4 「僕」がちょうをつぶした理由を考えてワークシート⑤に書く。</p>	<p>ワークシート⑤</p>	<p>○「僕」の目を通して描かれる「エーミール」の行動や様子が分かる表現にマーキングをさせ、その表現を根拠にして「僕」の心情を想像させる。</p> <p>○「僕」の心情に大きく影響した「エーミール」の様子を読み取らせ、二人の関係性がどのように変わったか考えさせる。</p> <p>○文章に書かれていることを根拠にして、「僕」の心情を想像させる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【読①】 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解して自分の感想をもっている。</p> <p>【本文ワークシート<Ⅲ>】</p> <p>【ワークシート⑤】</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>文章に書かれていることを根拠にして、登場人物の心情を想像して書いている状況を「おおむね満足できる」状況（B）と判断する。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「僕」の心情が分かる部分を続けて読ませ、「僕」が「エーミール」に分かってほしかったことを「エーミール」に分かってもらえなかったことに気付かせる。その瞬間の僕の衝動から、僕の心情を想像させる。</p> </div>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ま と め</p>	<p>5 学習計画表の「評価」の欄に学習活動をA・B・Cの3段階で自己評価して書く。また、「振り返り」の欄に「学んだこと・参考になったこと」を文章で書く。</p> <p>6 次時の「目標」を確かめ、見通しをもつ。</p>	<p>学習計画表</p> <p>ワークシート⑥</p>	<p>○目標に応じて学習内容がどうであったか考えて振り返るよう促す。</p> <p>○板書を参考にして学んだことを書かせる。また、グループや学級での参考になった発言などを書くように促す。</p> <p>○ワークシート⑥を配布し、次時は小説に書かれていない場面を想像して交流することを確認する。</p>	

6-5 5/6時の指導計画

(1) 目標

小説に書かれていない場面を想像して考えを交流し、ものの見方や考え方を広げようとする。

(2) 展開

※ 表中のゴシック体で書かれた学習活動は、本時における評価の場面を表す。

	学習活動	教材資料	○指導上の留意点 ◆ICT活用の場面	評価規準と評価方法 ◇形成的評価による個別指導 Cの状況の生徒への手立て
導 入	1 前時の学習を振り返り、 本時の目標を確かめる。	学習計画 表 ワークシ ート⑤	○2～3名の生徒に前時の 「振り返り」の欄に書いた ことを発表させる。 ◆前時の学習活動において 「十分満足できる」状況 (A)にあった生徒の記 述を紹介し、描写に注意 して読み、内容を理解し て感想をもつことについ て理解を深めさせる。	
	小説に書かれていない場面を想像して考えを交流し、ものの見方や考え方を広げよう			
展 開	2 小説に書かれた現在から 先の未来で、「僕」は「エ ーメール」と「再会する」 のかそれとも「再会しない」 のかについて想像し、自分 の考えをもつ。 〔手順〕 1) 想像するときの手掛 かりを確認する。一斉 2) 小説に書かれた現在 から先の未来で、「僕」 が「エーメール」と再会 するか、再会しないかを これまでの学習を踏ま えて想像する。個 3) 想像したことについ て理由を明らかにして 自分の考えを書く。個	ワークシ ート⑥	○小説の表現を根拠に再会 するかしないかの想像を させ、立場を明確にさせ て考えを交流させる。 ○これまでの学習で捉えた 二人の人物像や関係、 「僕」と「エーメール」 の間で起きた出来事とそ の時の心情などを手掛かり とするよう促す。	◇判断に迷っている様子の 生徒には、これまでの学 習で使ったワークシート を参照させながら、「僕」 がどのような考えをもつ 大人となっていったか について考えを聞き出し、 「再会する」か「再会し ない」かの判断を促す。
			《板書例》 「僕」は「エーメール」に 再会するのか、それとも再 会しないのかを想像する。 想像するときの手掛かり ・人物像 ・二人の関係性 ・「僕」と「エーメール」 のものの見方や考え方 ・二人の間で起こった出来 事とその時の心情	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">展 開</p>	<p>3 グループで交流し、自分のものの見方や考え方を広げる。</p> <p>[手順]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グループ交流の手順を確認する。 2) 「再会する」と想像するか、「再会しない」と想像するか、立場を確認し合う。 3) 多い方の立場の考えを、根拠が本文に書かれていることかどうかを確かめながら聞く。 4) 少ない方の立場の考えを、根拠が本文に書かれていることかどうかを確かめながら聞く。 5) 疑問に思ったことについて質問をし合ったり、気が付いたことについて意見を述べたりする。 <p>4 ワークシート⑥にグループの交流を通して広がったり深まったりした考えを書く。</p>	<p>ワークシート⑥</p>	<p>○友達の感想を聞いて、自分の考えがどのように変わったかをワークシート⑥に記入させる。</p> <p>○考えを広げるための交流であることを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>《板書例》</p> <p>考えを広げる話し合い</p> <p>《順序》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 立場を確認する。 2 多い方の立場の考えを聞く。 3 少ない方の立場の考えを聞く。 4 疑問に思うことを質問し合う。 5 気付いたことについて意見を述べ合う。 </div> <p>○「再会する」か「再会しないか」について必ずしも変える必要はないことと、ものの見方や考え方が広がったことについて書くことを確認する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【関①】文章を読んで感想をもち、交流して考えを広げようとしている。</p> <p>【観察】</p> <p>【ワークシート⑥】</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>考えを広げるために、自分の考えを述べたり、友達の考えについて質問したりしている。または、その結果をワークシート⑥に書いている状況を「おおむね満足できる」状況（B）と判断する。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>考えや根拠の違いに注目させて、相手の考えが納得できるものであれば自分の考えに反映させ、そうでなければ、納得できない理由を考えて言わせる。また、考えや根拠の違うものについて、交流でのやり取りや、納得できた考えを書くように促す。</p> </div>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ま と め</p>	<p>5 学習計画表の「評価」の欄に学習活動をA・B・Cの3段階で自己評価して書く。また、「振り返り」の欄に「学んだこと・参考になったこと」を文章で書く。</p> <p>6 次時の「目標」を確かめ、見通しをもつ。</p>	<p>学習計画表</p>	<p>○目標に応じて学習内容がどうであったか考えて振り返るよう促す。</p> <p>○板書を参考にして学んだことを書かせる。また、グループや学級での参考になった発言などを書くように促す。</p> <p>○次時は学級全体で考えを交流することを確認する。</p>	

6-6 6 / 6時の指導計画

(1) 目 標

小説に書かれていない場面を想像して考えを交流し、ものの見方や考え方を広げることができる。

(2) 展 開 ※ 表中のゴシック体で書かれた学習活動は、本時における評価の場面を表す。

	学習活動	教材資料	○指導上の留意点 ◆ICT活用の場面	評価規準と評価方法 ◇形成的評価による個別指導 Cの状況の生徒への手立て
導 入	1 前時の学習を振り返り、 本時の目標を確かめる。	学習計画 表	○2～3名の生徒に前時の 「振り返り」の欄に書いた ことを発表させる。 ◆前時の学習活動において 「十分満足できる」状況 (A)にあった生徒の記 述を紹介し、小説に表れ ているものの見方や考 え方を捉え、交流して 自分のものの見方や考 え方を広げることについ て理解を深めさせる。	
	小説に書かれていない場面を想像して考えを交流し、ものの見方や考え方を広げよう			
展 開	2 小説に書かれていない場 面を想像して考えを学級で 交流して、自分のものの見 方や考え方を広げる。 〔手順〕 1) 学級で交流する手順 を確かめる。 2) 前時のグループでの 交流で広がったものの 見方や考え方を確認 し、本時の交流に備え る。	ワークシ ート⑥	○立場の同じ友達の考えや 立場の違う友達の考えを 聞いて自分のものの見方 や考え方がどのように変 わったかをワークシート に書かせる。 ○まず、同じ立場の3人と 交流し、次に異なる立場 の3人と交流することを 確かめる。 ○交流の際には、グループ での交流を生かして相手 の考えを予想させ、これ まで知らなかった新しい ものの見方や考え方、及 び考えの根拠などを中心 にメモすることを伝える。	【関①】文章を読んで感想 をもち、交流して考え を広げようとしている。 【観察】 【ワークシート⑥】 考えを広げるために、自分 の考えを述べたり、友達 の考えについて質問したり している。または、その結果 をワークシート⑥に書いて いる状況を「おおむね満足 できる」状況(B)と判断 する。 ペアを作らせて、一緒に 交流するように促す。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">展 開</p>	<p>3) 同じ立場の人と交流し、ものの見方や考え方の違いや考えの根拠の違いをメモする。</p> <p>4) 違う立場の人と交流し、ものの見方や考え方の違いや考えの根拠の違いをメモする。</p> <p>3 ワークシート⑥に学級での交流を通して広がったり深まったりした考えを書く。</p> <p>4 単元の学習を振り返り、身に付けた力やその力を活用できそうな場面について考える。</p> <p>5 単元の学習に主体的に取り組めたかどうか評価をする。</p>		<p>○「再会する」「再会しない」の考えで、生徒を教室の左右に移動させ、交流しやすくする。</p> <p>◆電子黒板で、「再会する」「再会しない」のどちらに移動するか場所を視覚的に示し、交流しやすくする。</p> <p>○メモを基にして、新しく知ったものの見方や考え方と自分のものの見方や考え方との違いを考えて、考えをまとめるように促す。</p> <p>○2～3名の生徒に発表させて、アイデアを共有させる。</p> <p>○見通しをもって、自分なりの工夫をしながら取り組めたかどうか振り返らせる。</p> <p>○自分で気付いていない生徒については指導者が具体的に評価を伝える。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【読②】小説に表れているものの見方や考え方を捉え、交流して自分のものの見方や考え方を広げている。</p> <p>【ワークシート⑥】</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ワークシートに交流を通して広がったり深まったりした自分の考えを書いている状況を「おおむね満足できる」状況(B)と判断する。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>新しく得た考えを納得できるものと納得できないものを選別させ、納得できるものについて自分の考えに反映してまとめさせるように促す。</p> </div>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ま と め</p>	<p>6 学習計画表の「評価」の欄に学習活動をA・B・Cの3段階で自己評価して書く。また、「振り返り」の欄に「学んだこと・参考になったこと」を文章で書く。</p> <p>7 単元の学習を振り返り、身に付けた力やその力を活用できそうな場面について考え、学習計画表に記入する。</p>	<p>学習計画表</p>	<p>○目標に応じて学習内容がどうであったか考えて振り返るよう促す。</p> <p>○板書を参考にして学んだことを書かせる。また、参考になった発言などを書くように促す。</p> <p>○単元の学習について指導者の評価を伝え、生徒が新しい課題や今後の学習の展望がもてるようにする。</p>	